



発行 真言宗豊山派 霊松山歓喜院
金剛寺

〒371-0241 前橋市苗ヶ島町1147
TEL 027 (283) 6918 FAX 027 (283) 6815
http://www.raijin.com/kongouji/

「心の灰ふるい」

天台宗 円龍寺 服部順空



志田洋遠先生は私にとつて、いくつもの意味で
《人生の大先達》であります。

僧侶・住職として…。保護司として…。そして布
教師として…。

志田先生は真言宗、私は天台宗に属しております
が、寺報の発行をはじめ、悩みごと相談やインタ
ネットを通じたご布教、犯罪から更生しようとする
人への援助、全国展開の講演活動等々、先生のご活
躍は枚挙にいとまがなく、現代の社会問題に正面か
ら向き合い、強いリーダーシップをもって実践され
るお姿は、宗派を超越した素晴らしきお手本であり
ます。

この度、尊敬する志田先生のご寺報に寄稿させて

いただきますこと、誠に光栄に存す
る次第でございます。

お寺の本堂では、一年三六五日、
ご本尊へのお線香を絶やすというこ
とがありません。

毎日の「おつとめ」でお線香を立
て、お檀家のご法事の度にお線香を
立て、といった具合に…。

そしてその結果、本堂の香炉（お
線香立て）は、お線香がさきりにく
くなります。

それは香炉の灰の中に、燃え残つ
たお線香の「燃えさし」が溜まって
いくからです。

一本一本の燃え残りは短く小さい
ものですが、それが溜まることによ
つて、最初のうち「サクツ」とさき
さきさきさきお線香が、やがて「ガサガ
サツ」という手触りできさりにくく
なり、そのうち無理に立てようとよ
うとすると、お線香が「ポキツ」と
折れてしまつたりする…。

それなのでお寺では、定期的に
《線香の灰ふるい》をして、燃え残
つたお線香の「燃えさし」を取り除
きます。

ご経験のある方はお分かりになる
と思いますが、この「灰をふるう」
という行為、とっても気持ちがいい
んですよ。

広げた新聞紙の上、香炉の灰を篩
（ふるい）にかけていく…。

すると、出てくる、出てくる、香
炉の灰の見えない奥から、「こんな
にいっぱい溜まっていたのか!」と
驚くほどの「燃えさし」が現れます。
で、この《灰ふるい》をしながら、
いつも思うのです。

「ああ、私の心の中にも、煩惱の
「燃えさし」がいっぱい溜まってい
る…」と。

目を閉じて、胸の辺りを篩（ふる
い）にかけてみると、「ガサガサ
ツ」とする、小さな燃え残りがたく
さん出てきます。

たとえばそれは、《誰かに言われ
て傷ついた言葉》だったり、《押し
殺した自分の感情》だったり、《つ
いてしまつた嘘》や《人の不幸を喜
ぶ気持ち》だつたり…。

心の中の「燃えさし」も、定期的
に篩（ふるい）にかけてやらないと、
新しい《いのちのお香》を、燃やす
ことが難しくなつてしまふかもしれ
ません。

まもなくお盆がまいります。
《灰ふるい》を済ませた本堂の香
炉に、新しいお線香を立て、ご本尊
に手を合わせる、それに連動して、
心の灰も自然に篩（ふるい）にかけ
られ、スッキリ清められてまいりま
す。

どうぞ皆さんも、ご自宅の香炉を
清め、ご先祖さまに合掌し、清々し
いお心でお盆をお迎えくださいませ
よう、お念じ申し上げます。

保護司

志田洋遠先生のお話を聞いて

◆三年 女子◆

「人生はバランスが大切」といわれて、私は「今の生活バランスは大丈夫だろうか」と思いました。夏休みにはいって、勉強をすることなく、運動もすることなく、ただ時間が過ぎるのを目でみているだけの、今の生活。こんなんでバランスは大丈夫だろうか、と不安になりました。この言葉を聞いて、これからの生活を改善する必要があると改めて思いました。話を聞けて本当によかったです。又、感謝ということについて、たくさん思うことがありました。私は、父、妹、もちろんおばあちゃん、おじいちゃんの誕生日は、覚えていますが、家族の誕生日を知らない人がいるなんて、正直、おどろきました。自分の誕生日がき

た時、「家族の誕生日は」と、思わないなんて、ビックリです。いつもただ生活しているので、感謝とか、感謝とか、思うことがあまりなくて、少しかなしい気持ちになりました。でも、いつもとちがうことをすれば、大小は関係なく、すばらしい感謝、感激がみつかるんじゃないか、と思いました。両親や周りの人にもつと感謝して、また、その感謝を形にかえて、これからは勉強、運動、すべてのことを頑張りたいです。

今日は、本当にありがとうございました。



◆一年 女子◆

今日はいそがしい中、わざわざ来て下さってありがとうございました。

今日は人生のバランスや教誨師、心の教育や生と死についてたくさんのことを教えていただきましたが、その中で私の心に一番残っているのは心の教育と、生と死についてのお話です。私は今十二歳です。あと八年がすぎたら二十になり、今現在、義務化しようとしている裁判員制度にあてはまることになりました。

私は今のところは死けいはあつてもいいと考えています。死けいになる人はそれほどの罪をおかした人だと思うのでそれはありなのではないかと思えます。でもいざそれを自分で下せといわれたらすごく苦しくつらいと思います。その話をしていただいた時に私は、あらためて死ということを考えていました。死はともこわいことだと、それはよくわかっていきます。また逆の、生という



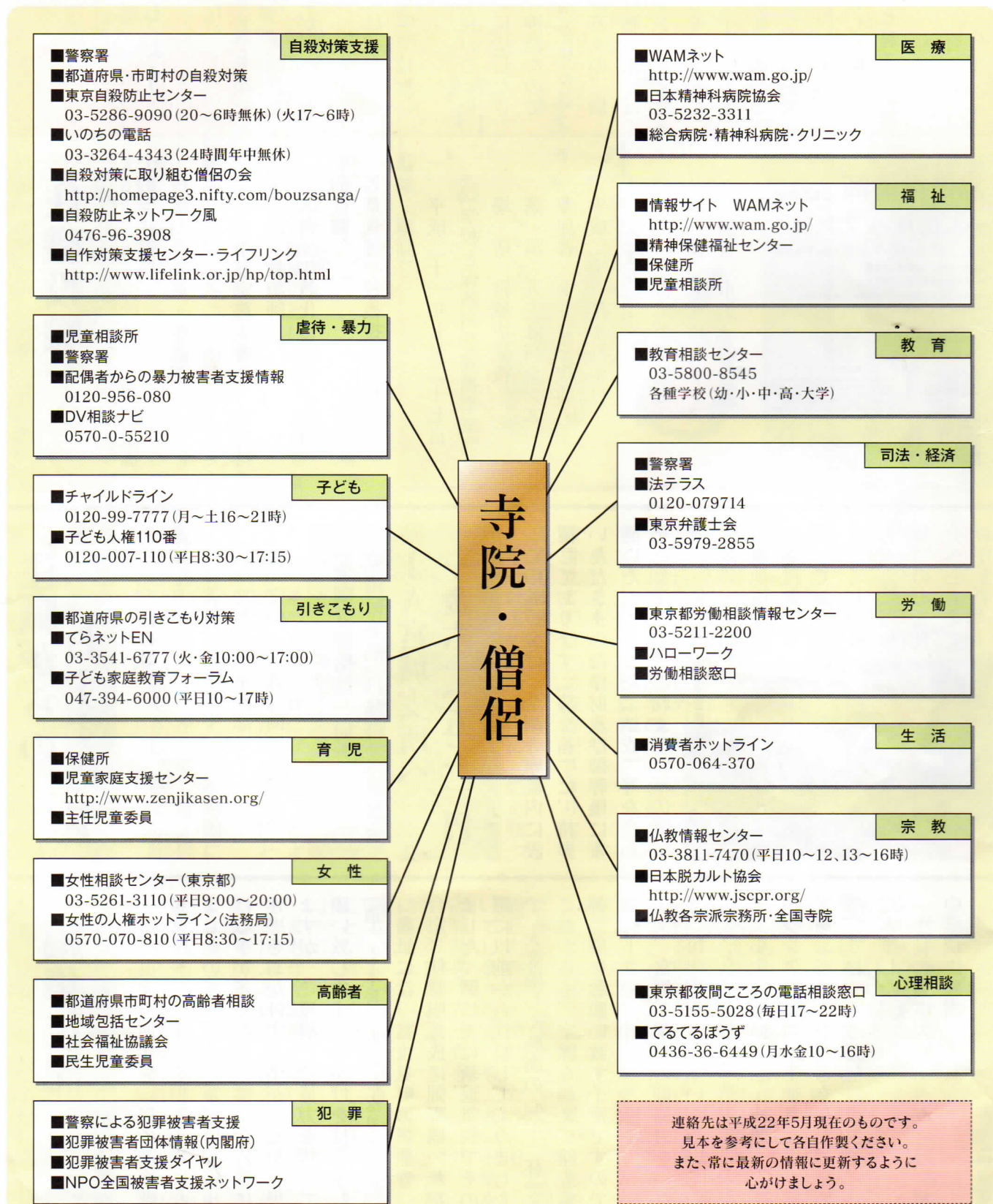
のも今日、お話いただきました。囚人が約八年間もの間、鉄ごうしの中で被害者のことしか反省していなくて自分を生んでくれた親に対しての反省がほとんどない…。これに私はつよく心をうたれました。

これからは私も、私を生んでくれた両親に感謝して、ただしい道を進んでいこうと思います。今日は本当にたくさんのお話しをしていただき、ありがとうございました。



寺院を中心とした地域社会とのネットワーク (例)

地域ネットワーク形成のために、専門相談機関や支援団体の連絡先リストを図表にしてまとめてみます。寺院の相談活動や援助活動の範囲に応じて地域別・分野別・専門別に分類し、必要なときに検索しやすいように工夫することが大切です。



法話 第七話

「悪をとどめ 善をすすめるよう」

常に家庭、社会が幸せて平和で有る為には、私達一人一人が悪をなさず善行に努める事が肝心である。

しかし、日常生活では、なかなか実行出来ないのが現実では無いだろうか。

悪いことをするな、良いことをしなさい、心を清らかにしなさい。この教えが仏教の神髄なのです。最近のマスコミ報道を見ると、大手企業・公務員等の方々の、倫理観・道徳観の欠如に唯々驚くばかりです。悪いことをするな、良いことをしなさい。心を清らかにしなさい。この事は、子供でも出来るような事ですが、高齢になっても中々実践する事が難しいのが現実ではないだろうか。

この言葉を今一度心して噛み締めて見る必要があると思うのだが。

合掌

住職役職

公的関係役職

行政相談委員・保護司

寺関係役職

豊山派中部宗務支所長・本山特派

布教師・教師師

全国青少年教化協議会評議員

私的役職

若葉養護学校後援会役員

講演（講話）

一、平成二十一年七月二十七日

『学校と保護司会連携事業』

場 所 宮城中学校

講 演 人生はバランス

参加者 全生徒・教師

二、平成二十一年十月十日

『桐生文化講演会』

場 所 桐生市新里町

講 演 人生はバランス

参加者 市民三〇〇人

志田洋遠師 文化講演会

演題 人生はバランス

平成21年 10月10日 (土曜日) 午後2時

会場 新里中央小学校 体育館

主催 桐生市文化協会 新里支部

入場料は、無料となります。お気軽にご参加ください。

駐車場は、中央小学校校庭です。

講師

真言宗豊山派金剛寺 住職 志田洋遠 師



講師のプロフィール

昭和二十一年立教館附属桐生高等学校卒業、中央学院短期大学、信州大学経済学部卒業、信州大学大学院経済学研究科修了。昭和三十一年に信州大学経済学部教授に就任。昭和四十一年に信州大学経済学部教授に就任。昭和四十二年に信州大学経済学部教授に就任。昭和五十一年に信州大学経済学部教授に就任。昭和五十二年に信州大学経済学部教授に就任。昭和五十三年に信州大学経済学部教授に就任。昭和五十四年に信州大学経済学部教授に就任。昭和五十五年に信州大学経済学部教授に就任。昭和五十六年に信州大学経済学部教授に就任。昭和五十七年に信州大学経済学部教授に就任。昭和五十八年に信州大学経済学部教授に就任。昭和五十九年に信州大学経済学部教授に就任。昭和六十一年に信州大学経済学部教授に就任。昭和六十二年に信州大学経済学部教授に就任。昭和六十三年に信州大学経済学部教授に就任。昭和六十一年に信州大学経済学部教授に就任。昭和六十二年に信州大学経済学部教授に就任。昭和六十三年に信州大学経済学部教授に就任。

志田洋遠 師の経歴 アドバイザー・全国銀行協会理事 講師、書籍執筆 (『道』、『道徳の道』)

住職からの おすすめ本

ある死刑囚の歌 蟲になっても

著者 田所妙子

文藝春秋企画部

定価 (一五二四円十税金)

「金剛寺檀信徒一同」 家畜伝染病「口蹄疫」へ義援金 J A宮城支所へ 一金六一、五二一円

この義援金は、金剛寺庫裏内に設置しております『募金箱』に、持参いただきました浄財及び御葬儀に布施いただきました「納衣」等を合わせた金額です。これまでに県仏教保護会・阪神淡路地震・新潟中越地震等々に寄付させて頂いております。これから、皆様の「布施」の心を社会へと考えております。



編集後記

本年度より四年間「豊山派中部宗務支所長」の重責を担う立場になりましたので、本山・宗務所等に出かける事が多くなり、檀信徒皆様にご迷惑をおかけする事が有るかと思っておりますが、ご理解とご協力を伏してお願ひ致します。おかげをもちまして「道」も本号で七号になりました。

表紙には、富士見町の円龍寺(天台宗)住職服部氏に御寄稿いただきました。師は正に新進気鋭でその活躍に以前から注目しておりましたので、大変嬉しく感謝の心で一杯です。これからも、宗派を越えて諸先輩の御寄稿をお願い致す予定ですのでご期待下さい。

又、宮城中学校の御協力をいただき、毎年実施させていただいている「学校と保護司会連携事業」のなかで、小生の拙い講話(演題 人生はバランス)に対し生徒さんより感想文をお寄せいただきました。紙面の都合でお二人の文を掲載させていただきました。

生徒の皆さん「ありがとう」宮城中学校に感謝

合掌